

東アジア絵画デジタル・アーカイヴ・プロジェクト

申請者(板倉聖哲)

(1) プロジェクト全体計画 (概要・目的・意義など)

本プロジェクトはこれまで継続して行ってきた中国絵画デジタル・アーカイヴ・プロジェクトを基礎として、さらなる発展を目指すものである。アジア美術画像アーカイヴ・プロジェクトの中心をなす中国絵画のアーカイヴをより充実させるため、科研等で新たに収集した資料を加工・整理、公開していく。

これまでに公開した「中国絵画所在情報データベース」「東アジア絵画史研究文献目録」は国内外のアクセスがあり、世界的にも認知されてきた。本プロジェクトでは、まず新たな画像データベース「幕末期中国絵画所在情報データベース」の作成に取り組み、さらに充実した画像データベースの充実をめざす。

(2) 今年度の進捗状況

今年度より新たに開始した「幕末期中国絵画所在情報データベース」のための作業であるが、栃木県立近代美術館学芸員橋本慎司氏やシカゴ大学准教授チェルシー・フォックスウェル氏、コロンビア大学アロン・リオ氏らの協力を得、個人所蔵の谷文晁一門による粉本の撮影を進めながら、各地に所蔵される比較すべき原図及び谷文晁作品の調査を並行して行った。

「谷文晁派 (写山楼) 粉本・模本 画像データベース」データベースの仕様について中国絵画のそれに則りつつ模本・原図のデータを共に掲載することで検索の便を図ることを確認し、整理・加工を終えた 200 点の画像について、試験的に画像データベースの公開を試みるも、地震等の影響で作業が一部中断、2011 年 5 月からの公開を目指す。

又、中国絵画資料については、継続して写真のデジタル化を進め、新たに加わった資料整理を行った。

(3) 公開予定の具体的な成果物

「幕末期中国絵画所在情報データベース 谷文晁派 (写山楼) 粉本・模本画像データベース」2011 年 5 月から公開予定。